



アクツ・エコ・サイクルとは？

水と重力と浮力のみを使用し、太陽光や風力のように天候に左右されない、究極の自然エネルギーを生み出す装置です。ビルなどに設置でき、高所から球を落とす位置エネルギーで発電し、落ちた球は水の浮力を利用してまた高所に戻ることで、一度きりでなく、持続的に発電することができます。
(注) その都度水を投入しますので、永く機関ではありません。

アクツ・エコ・サイクル4つの特長

1

どこにでもある資源を利用

水(雨水など)を資源とし、重力・浮力を利用して発電しますが、いずれも地域偏在のない、どこにでもあるものを用いてエネルギーを生み出すことができます。

2

環境に優しい(CO₂などを排出しない)

- 球を重力、浮力、水を利用して循環させるため、火力発電におけるCO₂や、原子力発電における核廃棄物のような、有害物質を一切発生させません。
- 住宅やビルなどに設置可能であり、水力発電における設備建設による環境破壊といった懸念もありません。

3

気候変動に左右されない

- 重力、浮力は気候変動によって変わらないため、常に安定的に発電できます。
- 同じクリーンエネルギーを生み出すものとして、風力発電や太陽光発電がありますが、いずれも気候変動に左右され、安定供給という点で課題があります。

4

既存施設に追加設置可能

- 縦長の構造であり、住宅や高層ビル・マンションの壁面に設置することができます。
- 火力、原子力、風力、水力など他の発電方法は個別に且つ大規模な設備を設ける必要がありますが、アクツ・エコ・サイクルは、大規模設備・そのための用地は不要です。

開発者プロフィール



氏名：阿久津 一郎

現職：(有)大一商事(飲食店その他経営)相談役
生年月日：1931年3月2日
略歴：旧制中学建築学科

【特許取得状況】

アクツ・エコ・サイクルは、現在5カ国で特許を取得済みです。
(日本、アメリカ、韓国、台湾、ヨーロッパ)

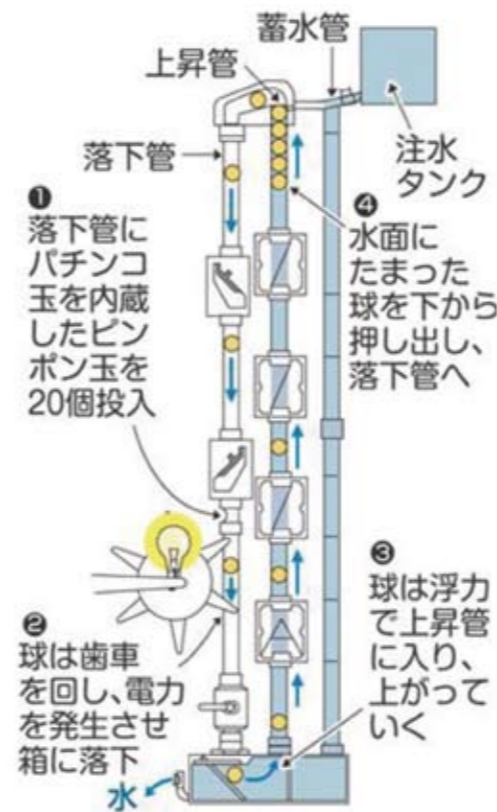


【メディア掲載】

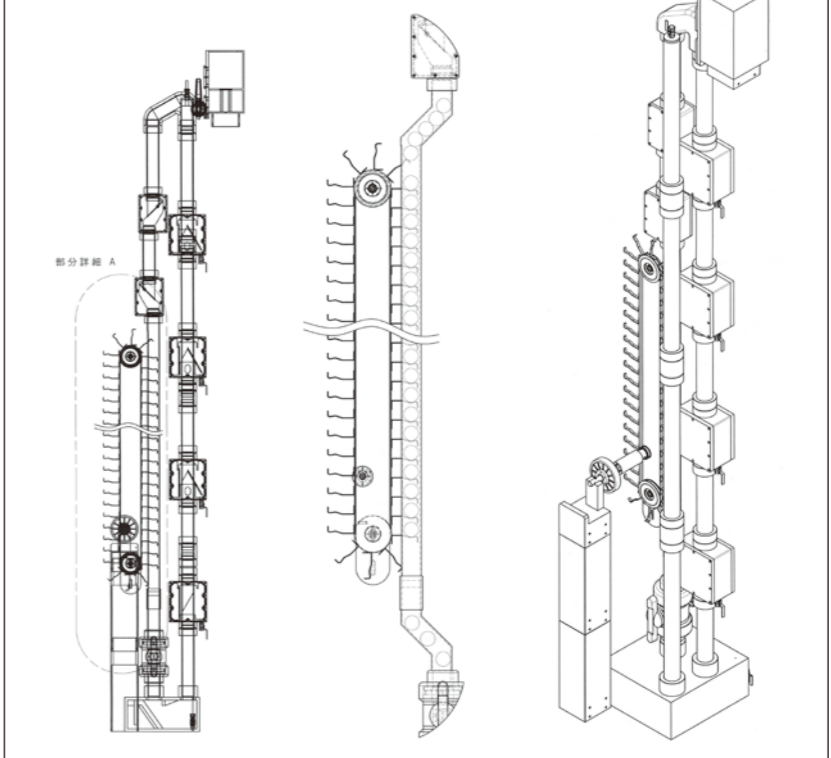
- 情報ライブ ミヤネ屋(読売テレビ)
- 産経新聞 2011年6月26日朝刊

現在世界人口は年々大きく上昇を続け、新興国経済も飛躍的に成長し、その結果世界の電力消費量も年々大きく上昇しています。近年シェールガスが開発されたものの依然化石燃料の枯渇が懸念され、またその希少性から争乱の発端ともなっています。化石燃料による火力発電によって生じる二酸化炭素も年々増加し、地球環境の問題も深刻です。環境に優しく、どこにでもある資源として、地球上どこにでも存在する重力、浮力に着目しました。この新たなエネルギー普及が、文明の更なる進歩、地球環境と人間との共生、争乱の解決を可能にすると、確信しています。

アクツ・エコ・サイクルの仕組み



〈4号機図面〉



- 使用する資源は、水・重力・浮力のみです。
- 設備は、パイプなどからなり上図のように縦長となっています。
- 基本構造は、高所から球を水中に落とし、浮力によってパイプの中を上昇して元の高さに戻って、また落ちるといった繰り返しによって歯車をまわし、発電するというものです。
- 上図は、ピンポン玉を用いた試作品です。実用の際は、ピンポン玉ではなく、鉄球などを用います。

他発電方式との比較

	① どこにでもある資源を利用	② 環境に優しい	③ 気候変動に左右されない	④ 既存施設に追加可能
アクツ・エコ・サイクル	◎	◎	◎	◎
火力発電	× 化石燃料は国内では採れない	× CO ₂ など有害物質を排出	△ 資源国の気候等に左右される	× 大型設備が必要な場合が多い
原子力発電	△ 偏在性は無いが技術が必要	× 核廃棄物など有害物質を排出	◎ 発電所内で安定して発電可能	× 安全面から独立施設が必要
風力発電	◎ 必要な資源は風のみ	◎ 有害物質を排出しない	× 天候によって風力は異なる	△ 独立施設が必要な場合が多い
太陽光発電	◎ 必要な資源は太陽光のみ	◎ 有害物質を排出しない	× 晴れない日は発電できない	◎ 屋根などに取り付け可能